



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

4月1日より、地域包括ケア病棟“彩り”の看護師長が変更になりました。

～生活しやすい地域に～



I C U・急性期病棟から異動となり、4月より地域包括ケア病棟を担当させていただきます。地域住民の皆様にとって利用しやすく、自宅と“彩り”を行き来して充実した人生を送って頂ける手助けができればと考えております。当院の退院支援チームや地域のケアマネジャーの皆様、訪問看護ステーションの皆様と連携を取り、その方にとって生活しやすい地域となるよう、その一端が担うことができれば幸いです。地域の皆様にとって、より身近な存在となれるよう努力してまいりたいと思います。地域包括ケア病棟“彩り”をよろしく申し上げます。（地域包括ケア病棟 看護師長 吉崎 浩美）

退院支援室の山本雅子Nsを紹介します。

～安心して退院して頂けるように～

皆様、はじめまして。3月より前任の豊島Nsから退院支援専従看護師の業務を引き継ぎました山本と申します。長い間、病棟看護師として勤務してきましたが、病棟を離れ、退院支援業務に直接的に関わらせて頂くのは今回が初めてとなります。入院患者様が安心して退院して頂けるよう努めていきたいと思っています。これまでから当院と連携を取って下さっていた地域の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導賜りますよう何卒お願い申し上げます。

（退院支援室 室長 山本 雅子）

ソーシャルワーカーのユニフォームを変更しました。

～NEW～

2019年度、『京都山城総合医療センターと老健やましろの入退院（入退所）支援に関わる部署の連携を促進し、組合としての一体化を図る』ことを目標に掲げています。その一環として、4月1日より、地域医療連携室のソーシャルワーカーのユニフォームを変更しました（老健やましろと同じデザインのポロシャツとチノパンです）。

ユニフォームだけでなく、地域の皆様から「(中身も)変わった」と思って頂けるよう、関わるスタッフが一丸となり頑張りたいと思いますので、よろしく申し上げます。



手前右より時計回りに、濱松・榊田

（地域医療連携室 室長 南出 弦）

山本Ns（退院支援室）・中野・南出・中嶋・松田

ゴールデンウィーク期間中、患者様の受け入れを行っています。お気軽にお問い合わせ下さい。

0774-73-1818（担当：中野・中嶋）

訪問看護部門の活動について

～ 患者様を支えるために ～

2016年より、当院が関わりを持っている患者様を支援することを目的に、看護部に訪問看護部門を設立し、現在3名で活動しています。

急性期病院の特性上、末期のがん患者様を多く訪問していますが、積極的に化学療法などの治療に励んでおられるがん患者様への訪問も行っています。入院中に受けておられた治療を住み慣れたご自宅でも継続することができるよう、主治医との連携を密にしています。

がん患者様の支援の他、内服管理、創処置、小児、腹膜透析患者様などの支援も行っていますので、こんなケースの訪問はできるのかな？どうだろう？と思うことがありましたら、どんなことでも一度ご相談ください。よろしくお祈いします。(訪問看護部門 奥田 直美)

“彩り”での作業療法士の関わりについて

～退院後の生活を見据えた関わりを続けます～

3月から、作業療法士が集団リハビリを週に数回担当させて頂くことになりました。従来からの体操に加え、音楽やレクリエーションなどを用いたり、季節を感じられるような要素を取り入れたりして楽しめる内容になればと思っています。昼食前のひと時をベッドやお部屋から離れて過ごし、みなさんが楽しめる時間になるよう取り組んでいきたいと思っています。

また『彩り』では、患者さんの日々の困りごとを解決したり、今後の生活に必要な動作を練習しています。例えば、食事動作が難しくなった方に「自助具」と呼ばれる道具の選定やその手配を行ったり、その方らしい一日を過ごして頂くために洗面所で一緒にお化粧の練習をしたり…。

これからも、入院中から患者さん一人ひとりの退院後の生活を見据えた関わりを続けていきたいと思っています。

ご期待ください！(リハビリ科 作業療法士 棚田 万理)



左より、岸上、小野、棚田、塩田、川上

地域医療連携室より

～ Get Back ～

中嶋SW、中野SWが中心となり、3月より地域のケアマネジャーの皆様の事業所や訪問看護ステーションの皆様の事業所への訪問活動を続けています。北は京田辺市方面、南は奈良市北部まで、可能な限り訪問しています。頂戴したご要望をリスト化し、①すぐに改善可能なもの、②少し時間がかかるもの、③現段階では保留、と分類し、整理しています。頂戴したご要望は改善策を検討した上で改めてDesignにて掲載させていただきます。

今回の訪問活動の目的は、地域の皆様からお聞きしたご要望を“彩り”の運営の改善に繋げていくことですが、我々の業務の原点である“要望(ニーズ)を聞く”という行為の大切さを改めて気付かせてくれる機会となっています。今後も、引き続き訪問を続けます。どのような些細なことでも結構ですので、ご要望をお聞かせ下さい。(地域医療連携室 室長 南出 弦)